

2. 9人制改正点・修正点

今年度についても、一昨年度までのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則の改正を行うこととした。またその他、日頃からJVAに寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

今年度の9人制競技規則の主な改・修正点は以下のとおりである。

なお、一昨年度からの修正・変更・追加した部分は下線で表記する。

1. 第14条 試合中断の不当な要求と処置

第2項 処置

2. 不当な要求として拒否された場合でも、そのチームは同じ中断中に異なる種類の中断の要求をすることができる。

⇒試合の遅延と分けて表記した。

2. 第21条 ボールイン・アウト（第4図-1、第4図-2）

2. ボールは、両アンテナ間でネット上方の許容空間を通過させ相手コートへ送らなければならない。このボールが次の状態になったときは、ボールアウトとする。

(1) ～路～

(2) ～路～

(3) ～路～

- (4) ボールの全体またはその一部でも、許容空間外側のネットの垂直面を完全に通過したとき、ただし、次の第21条3に該当する場合は除く。

(第4図-1 ボールアウト)

ネット下方の空間に範囲を示す矢印を追加した。

3. 第26条 試合の遅延

第2項 試合の遅延に対する処置（第5表）

1. 競技参加者が試合の遅延をしたときは、そのチームに対し、次のとおり処置し、罰則段階表（第5表）を適用する。

2. 不当な要求により、遅延警告の罰則が適用された場合は、同じ中断中に中断の要求をすることはできない。

⇒不当な要求によって遅延警告の罰則が適用された場合を追加した。

4. 第33条 公式ハンドシグナル

(第7図 審判員の公式ハンドシグナル)

③. ボールイン

(第8条(1))

(第21条第1項)

④. ボールアウト

(第8条(10))

(第21条第2項)

6. 付録(2) 公式記録記入法

(10) 次のようなときは、特記事項欄に、適用した事項／チーム／セット、(両チームの得点)その内容の順に簡潔に記録する。

① サービス順の誤りで翻って得点を取り消したとき。(記載例: 図-1の記載内容④参照)

6. 付録(4) ケースブック

3 - 6 - 4 ⇒ ルールの内容を変更した。

7. 公認審判員活動報告書

登録番号をメンバーIDに変更した。

3. ビーチバレー改正点・修正点

本競技規則は、2021年2月5日から7日にオンラインで開催されたFIVB総会において2020東京オリンピック後のルール改正が承認され、2021年10月にFIVBより「ルールブック2021~2024」としてホームページで公表されたものである。

それをもとに、2022年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

本年度のルールブックも6人制同様「英文併記」とした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

● 改正点

1. 規則 3.3 フォアボールシステム

FIVB世界・公式大会では、1つの試合に4個のボールを使用する。この場合は、フリーゾーンの4カ所のコーナーとファーストレフェリー、セカンドレフェリーの後ろに計6人のボールリトリバーが配置につく。(第7図)

2. 規則 14 ブロック

14.3 相手空間内でのブロック

ブロックでは、相手のプレーを妨害しない限り、選手はネットを越えて手と腕を伸ばしてもよい。しかし、相手チームがアタックヒットを行う前に、ネットを越えてボールに接触することは許されない。(規則 13.1.1)

14.6 ブロックの反則

14.6.1 ブロッカーが、相手チームのアタックヒットの前に、相手空間内にあるボールに触れたとき。(規則 14.3, 第8図④)

3. 規則 15.2.3 中断の要求を拒否され、遅延行為に対する罰則を適用された場合は、同じ中断中(すなわち、次のラリーが完了する前)に正規の中断の要求をすることはできない。

4. 規則 17.1.2 負傷や病気の選手には、最大限5分間の回復時間が与えられる。レフェリーは、大会公認の医療スタッフが選手を診るためにコート内への立ち入りを許可しなければならない。ファーストレフェリーだけが選手がコートを離れることについて罰則を適用することなく許可をすることができる。治療が完了するか、治療が必要ない場合はプレーが再開されなければならない。ファーストレフェリーはホイッスルをして、選手に続行を要求する。

5. 規則 22.2.6 最終的に選手が負傷 / 病気に至るまでの状況に応じて、ファーストレフェリーはメディカルアシスタンスを許可し、回復時間を開始する。(規則 17.1.2)
6. 規則 23.2.7 セカンドレフェリーは、ファーストレフェリーが選手にメディカルアシスタンスを許可する場合、回復時間の管理を含むプロセスを補助する。(規則 17.1.2)

● 修正点

1. 規則 4.5.3 サポーターの色について追加した。
2. 規則 9 ボールを取り戻すことができる位置を修正した。
3. 規則 12.5 スクリーンについて追加・修正した。
4. 規則 22.2.2 ファーストレフェリーの権限について追加した。
5. 規則 22 「主審」を「ファーストレフェリー」に表記を変更し、本文中の主審をファーストレフェリーに修正した。
6. 規則 23 「副審」を「セカンドレフェリー」に表記を変更し、本文中の副審をセカンドレフェリーに修正した。
7. 本文中の「審判員」を「レフェリー」に修正した。
8. 本文中の「審判台」を「レフェリースタンド」に修正した。
9. 規則 21, 24, 25 に「チャレンジレフェリー」と「リザーブレフェリー」を追加した。
10. 用語の定義に「チームのファーストヒット」「プロトコール」を追加した。
11. 記録用紙の表題部分を 6 人制・9 人制との統一性を図り、付録 (3) 公式記録記入法を一部修正した。
12. 記録用紙の「コート交替」を「コートスイッチ」に修正し、付録 (3) 公式記録記入法を修正した。
13. 公認審判員活動報告書の登録番号をメンバーID に変更した。
14. 規則・ケースブックをより読み易く理解しやすいようにするため、単語訳や表記を見直し、字句や表現を一部修正した。

4. ソフトバレー改正点・修正点

競技規則制定から 35 年を迎え、競技規則は、6・9 人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集にあたり、一部の付則を競技規則に組み入れた。

なお、小学生競技規則においては、この競技規則を基本としたうえで、小学生に特化した内容にまとめた。

以下が本年度の主な改・修正点である。

● 修正点

1. これまで付則としていた、審判員の責務および公式ハンドシグナルの内容を、第 7 章として競技規則に組み入れた。

第 7 章 審判員の責務および公式ハンドシグナル

『2022年度 レフェリーの目標と9人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部・審判規則委員会・指導部

1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。

2 重点指導項目

【主 審】

- (1) ハンドリング基準について
 - ・講習会等へ積極的に参加し、すべての審判員がハンドリング基準の統一を図る。
- (2) オーバーネットの判定について
 - ・オーバーネットに関するルールおよび判定の仕方を正しく理解し、的確に判定する。
 - ・複数のブロッカーの場合は、どの選手にボールが接触したかを確実に判定する。
- (3) ラリー中の判定について
 - ・主審から見えにくい位置でのプレーについては、副審との協働が重要である。
- (4) サービス許可の吹笛のタイミングについて
 - ・ラリー終了から次のサービス許可の吹笛までの間に、確認すべきことをルーティン化する。
 - ・中断の要求に注意をはらい、問題が無い状況で吹笛する。

【副 審】

- (1) 選手交代の組み合わせの確認について
 - ・選手交代およびセット間の選手交代は、記録員とともに組み合わせを確認する。
- (2) タイムアウトの要求の確認について
 - ・試合の流れを頭に入れ、タイムアウトの要求にタイムリーに対応する。
 - ・タイムアウトの要求がサービス許可直前の場合にも適切に対応する。
- (3) タッチネットの判定について
 - ・アタッカーのアタックヒット後のタッチネットに目を残し、的確に判定する。
- (4) アンテナ付近の判定について
 - ・アンテナに触れたのが、ボールなのか選手なのか、正確に判定する。

【記録員】

- (1) 選手交代の組み合わせの確認について
 - ・選手交代およびセット間の選手交代は、交代できる組み合わせかどうか確認する。
 - ・セット間の選手交代は、前セット終了時の状況を基準に、組み合わせを確認する。
- (2) サービス順の誤りの処置について
 - ・速やかに処置ができるよう、正しい手順を確実に把握する。

2022年度 9人制ルールの取り扱い

2022.2.11

【1】選手交代に関する事項

第13条第2項 セット間の選手交代

セット終了時にチームベンチにいた選手は、誰とでも交代して、次のセットの先発選手となることができる。この交代は、選手交代の回数に含まない。

(注)

- 1 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がない場合には、速やかに監督に確認を行う。確認の際は、サービスオーダー票で確認する。
- 2 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がされ記録用紙への記入が完了した後でも、再度、監督から先発選手の交代が出された場合は、副審のセット間終了（2分30秒）の吹笛前であれば認める。

【2】試合中断の不当な要求と処置に関する事項

第14条第1項 不当な要求

タイムアウトまたは選手交代の要求で、次のいずれかに該当するものは、不当な要求とする。

- (1) ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時に、その後の要求
- (2) 要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3) 同じ中断中の2回目の選手交代の要求（インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。）
- (4) 規定回数を超えた要求
- (5) 第1サービスと第2サービスの間の要求

第2項 不当な要求の処置

- 1 不当な要求は、主審および副審は拒否する。ただし、プレーに影響を及ぼしたり、同一試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返したときは、そのチームを試合の遅延（第26条）として処置する。
- 2 不当な要求として拒否された場合でも、そのチームは同じ中断中に異なる種類の中断の要求をすることができる。

(注)

1. 1回目の不当な要求は拒否をして、記録用紙に記載する。

(1)『サービス許可の吹笛と同時に、その後の要求』は、ラリー終了後に公式記録用紙に記録する。

(2)『要求する権利のない競技参加者がした要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定回数を超えた要求』と『第1サービスと第2サービスの間の要求』は、これらの要求があった時点で公式記録用紙に記録する。

2. 2回目の不当な要求(遅延警告)の場合は、これらの要求があった時点で処置をする。

3. 上記1.(1)のケースで副審が吹笛してしまった場合は、タイムアウトの要求等のケースで選手がベンチに戻ってしまうなど試合を遅らせたと主審が判断した時は試合の遅延とし、特に試合を遅らせずに再開できる時には、遅延とはせずにサービス許可の吹笛をし直し、そのラリーの終了後に不当な要求の処置を行う。

4. 不当な要求が遅延反則になったときは、ラリーの終了があったものとして取り扱う。

以上のように不当な要求があった場合、その都度記録員は、公式記録用紙に記録し、副審は、その内容を主審に報告する。

【3】ボールへの接触に関する事項

第19条第2項 接触時の条件

選手は、サービス(第23条第1項)をする場合を除き、身体の中の部分でボールをプレーしてもよい。

(注)

インプレー中の選手の長い髪の毛がボールに触れても、ヒット(ボールへの接触)としない。したがって、相手のアタックヒットしたボールがブロックやレシーブ時に長い髪の毛に触れてもボールへの接触と判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

【4】インターフェアに関する事項

第20条第5項 インターフェア

インプレー中、選手が次のような行為をしたときは、インターフェアの反則とする。

(1)相手チームの選手に一方的に接触し、その選手のプレーを妨害したとき。

(2)相手コート内にあるボールに、ネットの反対側から触れてプレーを妨害したとき。

(3)ネット外側のロープに触れ、相手チームの選手のプレーを妨害したとき。

(4)相手チームがプレーしているボールに対し、アンテナ外側のネット垂直面を越えて相手空間内にあるボールに触れたとき。

(注)

許容空間外のボールを取り戻すケースで、選手がネットの下から相手コート内に侵入し、相手側のフリーゾーンへ行った場合でも、インターフェアの反則としない。

ただし、プレーを妨害した場合にはインターフェアの反則とする。

【5】サービスに関する事項

第23条第3項 サービスの反則

次のいずれかに該当するときは、サービスの反則とする。

- (1) サービス順を誤ってサービスをしたとき（サービス順の誤り）。
- (2) サービスの失敗を2回続けたとき（ダブルフォルト）。

(注)

チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にサービス順を戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、罰則はそのまま有効とする。

これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。